

2月17日

2月18日 TEEB セミナーにおける浜中理事長ご挨拶

ご紹介いただきました財団法人地球環境戦略研究機関理事長の浜中でございます。

本日、TEEB プロジェクトリーダーのドイツ銀行理事のパバン・スクデブ氏、IUCN チーフエコノミストのジョシュア・ビッシュオブ氏、そしてインド工科大学ハリピリア・グンディメーダ准教授を東京にお招きして、環境省・田島副大臣のご来賓の下、名古屋大学エコトピア科学研究所、経団連自然保護協議会、IUCN 日本プロジェクトオフィスとの共催により、多くの皆様のご支援をいただき「生物多様性と経済・ビジネスに関する国際シンポジウム」が開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、当財団では、環境省のご支援により生物多様性分野における環境経済政策研究を名古屋大学、京都大学、長崎大学、横浜国立大学などとの共同で実施しております。本日のセミナーではこの研究成果の一部紹介と、今年10月に名古屋で開催される生物多様性条約 COP10 に向けて策定が進められている TEEB の概要を紹介して

いただき、COP10における課題などを抽出することを目的としています。

皆様ご承知の通り、生物多様性の喪失と劣化の問題は、気候変動にも匹敵する重要な地球環境問題として理解されつつあります。生物多様性分野における「スターン報告」ともいわれている **TEEB** 報告は経済の視点から生物多様性の問題を分析し、それを踏まえた問題解決策が提言されることが期待されています。

一方、私どもの研究により、日本においても多くの生物多様性の経済評価が行われ、国内の生物多様性の保全と維持管理のため日本独自の自然保護区制度、森林環境税や水源環境税など世界に発信できる多くの環境政策が実施されていることが明らかになりつつあります。

本日のセミナーにおきましては、**TEEB** の概要とその結果が生物多様性条約 **COP10** を経て今後どのように地球環境問題の解決に反映されるか、さらには日本の様々な環境経済政策の状況をご理解いただき、日本としてどのような国際貢献ができるかをお考えいただければ幸甚でございます。

最後になりましたが、本日のセミナー開催に当たりましては多くの方々のご支援をいただきましたこと改めて御礼申し上げます。そして会場の都合で希望にもかかわらず非常に多くの方々が参加できなかったことお詫び申し上げるとともに、本日のセミナー資料は本日中に IGES ホームページに掲載する予定であることを申し添えまして私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。